

専念寺通信

六月号 (NO. 142)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

一年のちょうどまんなかの月、水無月がやってまいりました。にわか雨が降ると、それが雹になったり、天候のかわりやすい今年の初夏です。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。『通信』6月号をお届けします。

☆施餓鬼会法要

5月27日に施餓鬼会法要がとりおこなわれました。199名の出席者の方々が、受付開始の前からおいでくださり、去年の大雨とはうってかわった夏のような日差しの中、定刻通り、東京教区城西組牛込部のご住職方7人と専念寺の住職による読経が始まりました。本堂内の様子を数枚撮影致しました。ちょうど、皆さんが順に立ち上がって餓鬼棚にお焼香なさるときで、80名くらいの方が次々に立って並んでいらっしゃいました。餓鬼棚には、数種類の野菜、果物、菓子、洗った米、白飯など、施餓鬼会法要独特の、私たち農耕民族の智慧の集まった食物が供えられています。また、法要の際、散華が撒かれます。本堂内で参加されると、その様子もよく分かり、



読経の声もじかに聞こえて、一人でも多くの檀家さまに入っただけならと思います。毎年、本堂内にお入りになれない方がテント席、書院にいっぱいになります。来年からは、もう少し本堂に参列いただけるように工夫したいと思いました。また、書院に入る際の段差が大きいので、この点も、檀家さまが少しでも楽におあがりになれるよう、考えてみなければと思っています。

法要が終わると、皆さま、それぞれにお塔婆をお持ちになり、お墓参りをなさいます。お食事をなさっていく方、ご家族連れ立って帰る方、晴天のなか、大きな法要に参加された檀家さま199人の晴れ晴れとした表情が心に残りました。欠席の方のお塔婆を、午後に、順にお墓にお立てして、今年の施餓鬼会は無事に終わりました。皆さまがお持ちくださった供花の美しさで、墓地は本当にどんな有名な庭園より値打ちのある、心やすらぐ場所になっていました。皆さまの深い信仰心が私共の誇りです。



☆**小さなお知らせ**：専念寺の婿、小沼久志が今年の施餓鬼会に随喜いたしました。「病氣療養中の住職にかわって」と通信の5月号に書いたため、檀家さまにご心配をおかけしてしまいましたが、幸い、住職の体調は落ち着いており、できる限り、年回法要、季節ごとの行事などをとり行なわせていただきます。今年は、すべての行事を、住職と婿とふたりで行なわせていただく予定です。

地震があったり、竜巻が起きたり、何かと異変の多い最近の日本列島ですが、心を静かに保ち、ふだんと違うことが起きてもいたずらにあわてることなく、穏やかにふるまえばそれが一番良いのだと思えます。

これから暑さにむかいます。電力の消費を抑えつつ、けれど、どうぞ皆さま、お身体をくれぐれもお大切にお過ごしください。また、7月のお盆でお目にかかれますまで、どうぞお健やかに。

平成24年6月1日 大黒